

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

埼玉県における肝炎コーディネーターの配置状況と活動実態

研究分担者 内田義人 埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 助教

**研究要旨**

埼玉県では 2021 年度までに 1,000 名を超える肝炎 Co を養成したが、その活動実績は低く、特に 2020 年度以降は新型コロナウイルス感染の流行によりさらに低下している。肝炎 Co の活動実態を明らかにするために肝炎コーディネーターへ活動に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。会場とウェブのハイブリッド形式で開催した肝炎コーディネーター養成研修会、フォローアップ研修会において、肝炎コーディネーターへ活動に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。肝炎コーディネーターの活動に関するアンケートは 152 件の回答が得られた。アンケート調査において実際に活動していると回答したのは 37 名（24%）で、同じ質問に対して 2020 年度 39%、2021 年度 20%とほぼ横ばいであった。一方、活動に際して肝炎 Co の人数が足りていると回答したのは 94 名（62%）で、2020 年度 54%、2021 年度 57%と比して上昇した。また、肝炎 Co の活動に新型コロナウイルス感染流行の影響があったかという質問に対して影響があったと回答したのは、43 名（28%）であり、2020 年度 42%、2021 年度 39%に比して減少が続いていた。

【結語】埼玉県における肝炎 Co の活動実態は依然として低いが、コロナ禍での活動に医療施設や肝炎 Co が慣れてきており、今後肝炎 Co の活動アクティビティが活性化されることが期待される。

**A. 研究目的**

人口 10 万人あたりの肝臓専門医が 2.79 人（2017 年）と少ない埼玉県では、肝疾患診療連携拠点病院以外に、県内を 10 の医療圏に区分し各医療圏に 1 つ以上の県指定の地区拠点病院 16 施設を設置し、肝疾患の治療に取り組んでいる。さらに、平成 25 年度～29 年度に 477 名の肝炎 Co が誕生し、肝臓専門医と共に肝炎治療に従事している。肝炎 Co の内訳として、看護師 159 名、保健師 9 名、栄養士 43 名、薬剤師 90 名、臨床検査技師 112 名、医療事務 40 名、患者 8 名、

その他 16 名であり、その多くが肝疾患診療連携拠点病院ないし地区拠点病院に所属している。

さらに、平成 30 年度には病院外で活動するコーディネーターを養成する目的で、肝炎地域 Co の資格を設定し、病院内で活動する肝炎医療 Co とは別に養成研修会を実施し、平成 30 年度～令和 3 年度に新たに肝炎医療 Co403 名、肝炎地域 Co221 名を養成した。

そこで、埼玉県内における肝炎 Co の活動実態を明らかにするために肝炎 Co へ活動

に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。

## B. 研究方法

埼玉県県民健康センターおよび Zoom ウェビナーを利用して、2022 年 11 月 3 日に肝炎医療コーディネーター養成研修会、2022 年 12 月 3 日に肝炎地域コーディネーター養成研修会を開催した。肝炎医療コーディネーター養成研修会では、肝疾患の基礎的な知識（総論・各論）、県の肝炎に関する施策について、肝炎地域コーディネーター養成研修会では、肝疾患の基礎的な知識（初級）、県の肝炎に関する施策、仕事と治療の両立支援について講義を行い、いずれの研修会においても google フォームを利用して試験を行った。

また、2022 年 11 月 2 日に埼玉県県民健康センターおよび Zoom ウェビナーを利用して開催した肝炎コーディネーターフォローアップへの申し込み時に、google フォームを利用して活動に関するアンケート調査を実施するとともに、パネルディスカッションにおいて肝炎 Co の活動実態と課題について討議した。

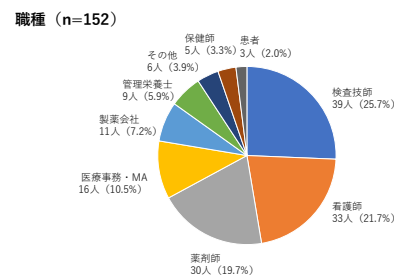
肝炎 Co の活動に関するアンケート内容を以下に示す。

- ・施設名
- ・職種
- ・在職年数
- ・肝炎 Co の種類
- ・肝炎 Co の活動ができているかどうか
- ・肝炎 Co の活動に際して人数が足りているかどうか
- ・コロナ禍の影響の有無
- ・活動でよかったこと
- ・活動で困ったこと

## C. 研究結果

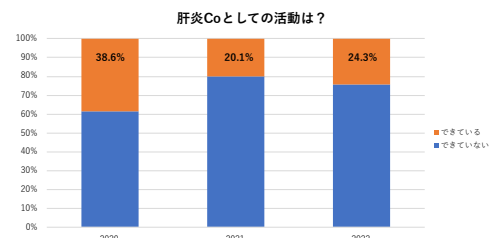
令和 4 年度に新たに肝炎医療 Co 77 名と、肝炎地域 Co 59 名が誕生した。

肝炎 Co の活動に関するアンケートは 152 件の回答が得られた。職種は、検査技師が 39 名（26%）と最多で、次いで看護師 33 名（22%）、薬剤師 30 名（20%）、MA・医療事務 16 名（11%）、管理栄養士 9 名（6%）、保健師 5 名（3%）、患者 3 名（2%）、その他 17 名（11%）であった。

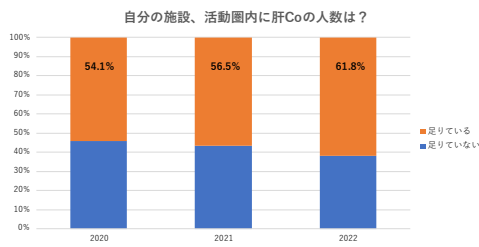


在職年数は、10 年目未満が 50 名（33%）、10 年目以上が 101 名（66%）、未記入 1 名で、肝炎 Co の種類は、医療 Co が 119 名（78%）、地域 Co が 20 名（17%）、医療 Co と地域 Co の両者取得が 7 名（5%）であった。

肝炎 Co として活動ができていると回答したのは 37 名（24%）で、同じ質問に対して 2020 年度 39%、2021 年度 20%とほぼ横ばいであった。



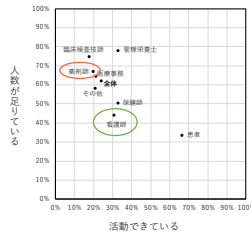
活動に際して肝炎 Co の人数が足りていると回答したのは 94 名（62%）で、2020 年度 54%、2021 年度 57%と比して上昇した。



これを職種別にみると、医療事務，管理栄養士，臨床検査技師，薬剤師はCoが足りていると回答した頻度が高かった（64.3%，77.8%，74.4%，66.7%）が，看護師，行政保健師で低かった（43.8%と50.0%）。

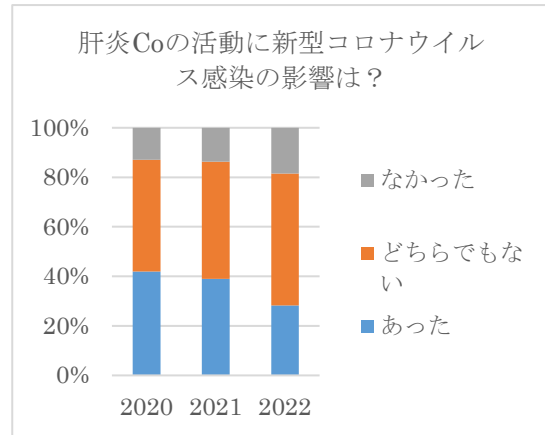
職種別にみると、看護師、薬剤師のCoの人数および活動指数が低い

R4年度実施



各職種による活動のパネルディスカッションでは、活動好事例として、臨床検査技師からは検査部におけるウイルス肝炎陽性者の拾い上げについて、薬剤師からは薬剤指導における肝炎外来の設置、管理栄養士からは肝疾患患者に対する栄養指導やサルコペニアへの取り組み、医療事務からはコロナ禍における診療の取り組み、ウェブを利用した肝臓病教室の取り組みなどの発表があった。

肝炎 Co の活動に新型コロナウイルス感染流行の影響があったかという質問に対して影響があったと回答したのは、43名(28%)であり、2020年度42%，2021年度39%に比して減少が続いていた。



#### D. 考察

2022年度はアンケート調査において実際に活動していると回答したのは24%であり、2020年度の39%と比して低下していたものの、2021年度の20%と比して上昇していた。一方で、新型コロナウイルス感染が活動に影響があったと回答したのは2020年度42%，2021年度39%，2022年度28%と減少が続いていることより、コロナ禍での活動に医療施設や肝炎Coが慣れてきており、今後肝炎Coの活動アクティビティが活性化されることが期待される。

肝炎Co活動に際して肝炎Coの人数が足りていると回答したのは62%で、2020年度、2021年度と比して増加傾向が見られた。職種別にみると、臨床検査技師，MA・医療事務，管理栄養士は活動できていると回答した頻度，人数が足りていると回答した頻度の両者が高かった。これらの職種ではパネルディスカッションにおいても具体的な活動の好事例が挙がっており、それぞれの施設において活動の好事例をもとに活動アクティビティが高くなっていると考えられた。一方で、看護師のCoは人数は足りているが、活動ができていないと回答した頻度が高かった。看護師は在職年数が10年以上のCoが多く、Coとしての業務がすでに普段の一般業務として取り込まれており、Coとして

の活動としての実感がないことによる可能性がある。

## E. 結論

埼玉県における肝炎 Co の活動実態と配置状況について検討した。今後は職種のみならず医療圏ごとの解析を継続していく。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

(1) 内田義人, 中山伸朗, 持田智, PD6-5 埼玉県における医療助成診断書に基づいた DAA 治療開始患者の解析: 自治体検診と職域検診での陽性者の比較, 肝臓 第 61 巻 臨時増刊号 (1) A106

(2) 赤羽典子, 小針陽子, 玉井彩加, 内田義人, 持田智, SP2-2-17 埼玉県における肝炎対策の新たな取組: 一般医療機関における術前検査等での肝炎検査実施状況に関するアンケート調査, 肝臓 第 61 巻 臨時創刊号 (1) A262

(3) 玉井彩加, 赤羽典子, 内田義人, 持田智, 埼玉県における妊婦検診肝炎ウイルス陽性者の現状と受診勧奨の取り組み, 肝臓 62 巻 Suppl. 1 Page A235

(4) 内田義人, 飯塚綾子, 持田智, 医療費助成診断書に基づいた DAA 治療開始患者の解析, 日本消化器病学会雑誌 118 巻臨増総会 Page A212

(5) 飯塚綾子, 田山智美, 征矢野ゆみ子, 内田義人, 持田智, 新型コロナウイルス感染流行下で求められる肝炎コーディネーターの活動, 日本消化器病学会雑誌 118 巻臨増総会 Page A264

(6) 飯塚綾子, 内田義人, 征矢野ゆみ子, 森永江利, 坂本里恵, 内村常子, 持田智, 多職種 Co の連携による肝がん・重度肝硬変

治療研究促進事業助成申請の取り組み, 肝臓 (0451-4203) 63 巻 Suppl. 1 Page A244 (2022. 04)

(7) 内田義人, 持田智, 日本の肝がん死の減少を目指して-受検・受診・受療・フォローの Cascade of care(疫学・政策) 埼玉県における妊婦健康診査肝炎ウイルス陽性者の現状と受診勧奨の取り組み, 肝臓 (0451-4203) 63 巻 Suppl. 1 Page A180 (2022. 04)

(8) 内田義人, 持田智, 病態に基づく肝疾患医療連携の今後 妊婦健康診査肝炎ウイルス陽性者の現状と受診勧奨の取り組み, 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586) 119 巻臨増総会 Page A230 (2022. 03)

## G. 知的所有権の取得状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

